

お天気に誘われて、宗像三女神をお参りに行きました。

宗像三女神は、世界遺産である厳島神社でもおまつりされています。

天照大神の息吹から生まれた田心姫神・端津姫神・市杵島姫神はそれぞれ、沖津宮・中津宮・辺津宮でまつられています。

宗像三女神を姉妹の順番にお参りすることにして、玄界灘に浮かぶ大島へ向かいます。

宗像の神湊から竿を持った釣り人に交じって、フェリー「おおしま」で25分。大島港渡船場に到着です。

ここから無料の島内周遊バスに乗り、まずは沖津宮遥拝所へ。



「神宿る島」沖ノ島は島が古くから信仰の対象であり、厳格に禁忌とされていることがあります。

- 一. 女人禁制。
- 一. 島で見聞きしたことは一切口外してはならない「お言わず様」。
- 一. 島から一木一草も持ち出してはならない。

沖ノ島への上陸はかなわないので、この沖津宮遥拝所より遠くにうっすら浮かぶ島へ向かい宗像三女神の長女とされている田心姫神へ拝礼。「今日はお天気なので3週間ぶりに沖ノ島が見えてるね」とバスの運転手さんが沖ノ島を指差して教えてくれました。

ふたたびバスへ乗り、次女の端津姫神をまつる港近くの中津宮へ。ここは七夕伝説発祥の地とされているらしく、側には小さな小川(天の川)を挟んで、丘の上に織姫神社、向かいの丘に牽牛神社もありました。



神湊に戻り、宗像大社へ。
三女の市杵島姫神にお参りの後、奥の高宮祭場(三女神降臨の地)へ進みます。

社殿がない高宮祭場は新緑に囲まれ、神様の姿が見えるかのようでした。



沖ノ島は4世紀後半、岩上祭祀に始まり
→岩陰祭祀→半岩陰・半露天祭祀→露天祭祀
へと移っていった古代祭祀の変遷を伝えています。

宗像大社は交通安全の神様で有名です。
私も新車をお祓いに行ったことがあります。

もとは朝鮮半島へと続く海路の守り神なんですね。



沖ノ島沖では1905年に日本海海戦がありました。

東郷平八郎元帥率いる
日本艦隊とロシアのバルチック艦隊が交戦し、
日本軍が約5時間でバルチック艦隊を壊滅させ、
日露戦争の勝利となった歴史的な海戦です。

大島には日露の友好を誓う慰霊碑が
建立されています。

←奥に沖ノ島が見えましたが、写真ではかすんで見えませんね。

沖ノ島には現在も宗像大社の神職が10日交代で神様をお守りしています。

釣りをする友人は、神職交代の船に何度か乗り合せたことがあるそうです。

地域の人々に受け継がれてきた信仰をこれからも大切にしていきたいと願う、福岡県民です。

世界遺産検定マイスター 田中 成美